

決 裁	議 長	局 長	主 事

受付

## 報 告 書

平成 年 月 日

湯前議会議長 山下 力 様

湯前町議会議員

議員派遣として参加（出席）した研修（会議）の内容（結果）は、次のとおりでありました。

期 間	平成29年11月16日（木）
場 所	熊本県市町村自治会館 本館2階
目 的	平成29年度熊本県町村議会広報研修会

報 告 の 内 容	<p>演題：「読む！ 質す！ 生かす！」～熟議型クリニックで現状打破～  講師：熊本日日新聞社N I E 専門委員・熊本大学客員教授 越地真一郎氏  参加：全4グループのうち、本町は第2グループに参加（7自治体）  <u>湯前町、高森町、芦北町、錦町、多良木町、球磨村、南小国町</u>  ※湯前町と南小国町を除く5自治体が、議会だよりクリニックに参加</p> <p>◆研修内容</p> <p>□「熟議型クリニック」とは  「事前に内容をよく理解した上で取り組む診療所」という意味合い。  ・クリニック対象の議会だよりを、各自治体で事前にレビューしてコメントを提出。  ・越路先生がそのコメント内容について、長所は抽象的に、欠点は具体的に解説。</p> <p>□県内の町村に学ぶ  「ゆのまえ議会だより」に引用できる各自治体のコメントを以下に示す。  ・人物の写真を掲載する場合、必要に応じて許可を取る。  撮影者が広報担当と分かる腕章などを身に付ける。  ・町村の広報誌と同じ内容を掲載しない。 → 議会で対応した部分を掲載する。</p>
-----------------------	--

## □日本一の町村に学ぶ

平成28年度 全国町村議会広報コンクールの上位4町村（宮城県利府町、岩手県金ヶ崎町、高知県越智町、鳥取県大山町）は、以下の点が優れている。

- ・住民目線の徹底
- ・企画や特集の重視
- ・ボリューム（ページ数）
- ・視覚的でインパクトのあるレイアウト
- ・情報の大胆な取捨選択
- ・見出しとリード文の工夫
- ・常任委員会としての位置づけ

「ゆのまえ議会だより」に引用できる越地氏のコメントを以下に示す。

- ・「住民の声」を掲載する。 ※テーマを設定
- ・表紙の写真に意味を持たせる。 ※本町は「議員活動シリーズ」
- ・表紙写真をスマホで動画表示。 ※AR動画
- ・「議会だよりをどの程度読んでいるか」のアンケート調査。

## □広報充実のために

「ゆのまえ議会だより」に引用できる越地氏の提案を以下に示す。

- ・投票率をアップするため、読ませる議会だよりを目指す。  
①議会だよりを読む → ②わが町に関心 → ③投票
- ・若者を意識した編集を行う。（議会クイズ、1コーナー、1ページ、特別号など）  
①若者（子どもが読む） → ②親（大人が読む） → ③つくる側の変化
- ・議会だよりモニター・サポーター制の導入。（北海道芽室町）

## ◆所感

- ・本町の議会だより（平成29年11月号）は、12ページに増やして、ようやく他議会と足並みが揃った。第2グループで参加した7自治体と比べて、見出しの付け方、表記レベル、色使いなど劣っていない。全国トップレベルの利府町や金ヶ崎町の議会だよりを参考にした成果が出ている。

- ・今後は、「住民の声」や「子ども向け」などの企画ページを取り入れて、更なる内容の充実を図り、まずは平成30年度のクリニック参加を目指したい。平成32年度までに、熊本県内の町村で最高レベルの評価を得たい。

